

6回生 選択必修科目「日本史B」授業のシラバス

教科名	地理歴史	科目名	日本史B	単位数	4単位
科目の目標	○我が国の歴史の展開を地理的条件や世界史と関連付けて考察させ、伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				
教科書	詳説日本史B（山川出版社）	副教材	新詳日本史（浜島書店）、ゼミナール日本史（浜島書店） 日本史重要語句 Check List（啓隆社） 日本史標準問題（山川出版社）		

1 学習の目標

- 世界史との関連や他国との結び付きに着目しながら、時代ごとの生活や文化の特色、政治・経済の移り変わりや時代を貫き説明できるわが国の特質や国民性などへの考察を深め、幅広い知識と教養を身に付ける。
- 日々の授業を通して「問い」への追究を発展させていくとともに、知識を活用したり、関連付けたりすることで、現代の諸課題につながる歴史的背景への考察を深め、自分なりの考えをまとめたり、説明したり議論したりする思考力・判断力・表現力を養う。
- 歴史を学ぶ意義を模索し、主体的に粘り強く学び続ける態度を養う。

2 学習の方法

- 授業について
 - 講義形式ばかりもよくないですし、かといって調べ学習や話し合いばかりに終始しても成就感が味わえるものではありません。「説明を聞く（書く）場面」「自分たちで学ぶ場面」どちらにも主体的な姿勢で、「なぜ？」と常に疑問や批判をもちながら意欲的に学ぶことが大切です。ただ聞いているだけでなく、積極的にメモを取ったり、自分で「まとめノート」を作成したりすると、より理解や思考力が深まります。思考力・表現力は、ある程度の知識を基盤としないかぎり高まっていくものではありません。
 - 考察・構想したり、歴史的思考力や表現力を養ったりするために、次に示す「歴史的な見方・考え方」（例）を意識してください。
 - ◆時期・推移 … どのような「変化」がみられたか、どの時代にはどのような特色があったか
 - ◆比較 … AとBを比較してみて、どのような「共通点」や「相違点」があるか、そのことは何を意味しているか
 - ◆因果関係 … なぜか（背景・原因）、どのような影響をもたらしたか、どのような相互関係がみられたか
- 復習について
 - まずは知識の習得が大切です。教科書や資料集を熟読すること（積極的にメモを書いたり、マークしたりする）、副教材を中心としてこつこつと何度も繰り返し復習（アウトプット）することが大切です。地道な努力を要します。
 - とはいえ「用語」を覚えるだけでは考查や模擬試験で良い成果は得られません。用語の意味について理解したり、大きな時代の展開を捉えて説明したり、様々な資料（文字史料、文化作品）についてのポイントがおさえられるように学習しましょう。
 - 知識の確認や復習を促すために「小テスト」を実施します。副教材（ゼミナールや一問一答集）の学習成果を試します。定期考査は共通テストや大学入試に準じた形式で、初見の問題を原則とします。主として知識活用能力や思考力を問います。
 - 好きか嫌い、受験科目であるか否かによって著しく手を抜いたり、他教科の学習をしたりすることは絶対に認めません。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
① 関心・意欲・態度	我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。
② 思考・判断・表現	我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察し我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めるとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し表現する。
③ 資料活用 の技能	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的現象を追跡する方法を身に付ける。
④ 知識・理解	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立って総合的に理解し、その知識を身に付けている。

(2) 評価の方法（以下観点①～④は「(1) 評価の観点」と対応する）※4つの観点を日頃の授業や考査等から総合的に評価します。

観点	評価材料	定期 考査	単元 テスト	小 テスト	実技 実習	発言 発表	作品	レポ ート	ノート	ワーク シート	討議	態度	
① 関心・意欲・態度		◎		◎		○		◎		◎	○	○	
② 思考・判断・表現		◎		◎		○		◎		◎	○	○	
③ 資料活用 の技能		◎		◎				◎		◎			
④ 知識・理解		◎		◎				○		○			

■本校で目指す生徒像と身につける資質・能力

高い知性						豊かな人間性			健康な心身		郷土愛と国際性	
探究心		情報活用能力		調整力		自律心	寛容さ	感受性	生命尊重の心	強くないやかな心身	日本人としての誇り	多様性の尊重
関心・意欲	問題発見力	情報収集力	論理的思考力	共感的態度	意見交換・調整力							
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
課題に関心を持ち、問題発見・解決へ向けて意欲的に取り組むことができる。	生じている問題や今後生じる問題について理解し、解決方法を提案することができる。	多様な視点から必要な情報を収集し、整理・分析して、意見に結びつけることができる。	事象や関係を把握し、多様な情報を理解し、整理・分析し、論理的に示すことができる。	相手の感情、思考、行動を理解し、共感を示すことができる。	他者の主張を理解し、自分の主張と調整し、互いに納得できる結論を得ることができる。	強い意志をもち、周囲に流されることなく、困難に立ち向かうことができる。	異なる価値観や多様な特質を理解し、尊重しながら、互いを高め合うことができる。	有形無形の美や自然に対し、その価値を素直に受け止めることができる。	命の尊さや健康の大切さを理解し、何より自他の生命を尊重することができる。	困難に負けない強い心と体を持ち、あらゆる課題に対して柔軟な対応ができる。	郷土に対する深い理解と愛着を持ち、日本のよさを伝えることができる。	世界の多様性を理解し、多面的・多角的な視野から他者と接することができる。

4 授業計画

月	単元	学習内容	評価の観点	考查等	資質・能力
4	(1)原始・古代の日本と東アジア ア 歴史と資料 1.「資料をよむ」(1) イ 日本文化の黎明と古代国家の形成 ◎第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの ア文化のはじまり(2)	長屋王の変を探る 歴史の叙述が何を根拠に構成されているかを知る。 人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気付く。 大陸からの道具の流入や稲作の伝播などを踏まえて弥生文化の形成を理解する。 集落・墓の変容からも見られるように富の蓄積が開始される中、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連付けて理解する。 地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。	②③教科書に載る文献資料や考古資料などを分析して、長屋王の変の叙述根拠を多面的に捉え、歴史の復元に迫ることができたか。 ①②日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立を自然環境の変化や大陸との影響に着目してとらえることができたか。 ②③黒曜石などの考古資料を提示し、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて旧石器文化・縄文文化の社会について考察できたか。 ①②水稻耕作の開始・金属器の伝来が弥生文化の社会に与えた影響を弥生土器や発掘された農具から考察できたか。 ②③小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について、環濠集落や武器の出現、『魏志』倭人伝などの文献資料に基づき、国内外の情勢を踏まえて多角的に考察できたか。 ①③前方後円墳をはじめとする古墳やそれに伴う石室の形状や大きさなどの変容からヤマト政権成立までの過程を考察できたか。 ②④中国及び高句麗・新羅・百済などの朝鮮半島の情勢との関連、文字や仏教などの大陸文化の受容を踏まえ、ヤマト政権の成立がとらえることができたか。また、群集墳の増加など古墳文化の変化や生活の変化、大王を中心とする政治制度も踏まえ、ヤマト政権を総合的に理解できたか。 ③④台頭する蘇我氏と厩戸王を中心とする朝廷の対立や飛鳥文化の形成について、仏教の受容や遣隋使・遣唐使などの大陸との交流を踏まえて考察できたか。 ②④大化の改新から平城京に至るまでの政治的経過を天智朝・天武朝を中心に、大宝律令による官僚制と税制の確立などによる律令体制整備の視点から考察できたか。 ②③④公地公民制について、税制や土地支配の関係を踏まえて把握し、持統朝における藤原京と白鳳文化の形成まで考察できたか。 ②④平城京における大宝律令・養老律令による律令体制が整備について、遣唐使の派遣や地方社会との関わりなども踏まえて考察できたか。 ③④政界における藤原氏の進出、聖武天皇の私財法による初期荘園の誕生などを踏まえて考察できたか。 ③④盛唐文化の受容を踏まえ、国史などの編纂や仏教美術の展開、仏教の興隆による鎮護国家の思想の誕生などについて考察できたか。 ②④蝦夷や東アジア世界との関係の変化を踏まえて、中央における藤原北家の台頭、地方における土地支配体制の動揺について考察できたか。 ③④眞言宗・天台宗などの密教に着目して、唐文化を消化し、密教芸術が生まれた弘仁・貞観文化の意義を理解できたか。 ②④藤原北家の発展過程を理解し、公領の変質や荘園の拡大など律令体制の変容をとらえて、摂関政治を考察できたか。 ③④国際関係の変化や遣唐使の廃止などを踏まえ、浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文学の成立による国文学の発達に着目して、貴族の生活・文化を理解できたか。 ②④文献資料を活用し、国司の支配の変容と公領の変質、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況を考察する。 ②④武士の反乱や成長などから中世社会の萌芽を見出すことができたか。 ③④延久の荘園整理令が出され、荘園公領制が明確化されたことを踏まえて、院政の政治構造や社会を理解できたか。 ②④院政期後半における武士の影響力の拡大や平氏政権における日宋貿易の展開、両時期における地方文化の発展を踏まえ、武家政権の成立過程を把握できたか。 ②④源平の争乱から鎌倉幕府成立までの過程、鎌倉幕府と朝廷による二元的支配の構造、封建制度の成立などに着目することができたか。 ②④北条氏が台頭し、承久の乱を機に執権政治を確立していくことを踏まえ、武家政権の形成を見ることができたか。 ②④鎌倉幕府の政治・軍事体制の根幹を成す惣領制の成立、土地支配をめぐる地	※小テストなどは随時行います。	ABCD I JKLM ABCD I JKLM ABCD I JKLM
5	イ 農耕社会の成立(1) ウ 古墳とヤマト政権(5)	ヤマト政権の統一に至る国家の形成過程について東アジア世界との関係、古墳時代の人々の生活の変容などを踏まえて考察する。			
6	第2章 律令国家の形成 ア 飛鳥の朝廷(5) イ 律令国家の成立(6)	ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、推古朝を中心とする飛鳥の朝廷の時代を理解する。 律令国家が成立するまでの政治の動向と土地や人々への統治の整備について理解する。		1学期中間考查	ABCD I JKLM
7	ウ 平城京の時代(4) オ 天平文化(1) カ 平安朝廷の形成(4)	律令体制完成までの都の建設と古代文化の発展過程について理解する。 律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。 平城京における政治の動きについて、民衆への土地政策も含めて考察する。 天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。 平安京前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や平安初期の政治改革、地方の変貌を踏まえて、律令体制の変質を理解する。 東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する。 藤原氏による摂関政治が地方における土地・人々との支配体制に及ぼした影響を理解させる。			ABCD I JKLM ABCD I JKLM
8	ウ 古代国家の推移と社会の変化 第3章 貴族政治と国風文化 ア 摂関政治(4) イ 国風文化(1) ウ 荘園と武士(2)	平安京前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や平安初期の政治改革、地方の変貌を踏まえて、律令体制の変質を理解する。 東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する。 藤原氏による摂関政治が地方における土地・人々との支配体制に及ぼした影響を理解させる。 新しい貴族文化である藤原文化が、国風文化として大陸文化を消化した上に展開されていることを理解する。 荘園整理令や国司の土地支配の進展に伴い、寄進地系荘園など荘園・公領の動きに変化があったことを理解する。 地方の反乱と鎮圧など、武士の成長と進出過程について、源氏などを例にとりて考察する。 院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・社会を考察する。 国際的な出来事や文化の動向に着目して、平氏政権における武家政権の形成過程を理解する。 本格的な武家政権としてとして成立した鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な政権に成長していく過程を理解する。 公武関係に着目して、執権政治の確立にいたるまでの中、鎌倉幕府が公家政権よりも優位に立っていく過程を理解する。 武士の生活と地方支配を通じて、土地支配の実質的な支配権を地頭が掌握するようになっていった過程を考察する。 蒙古襲来による政治・経済・文化への影響が幕府の衰退につながっていくことを理解する。 鎌倉新仏教の成立により庶民や武士の活動が活発化し、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。			ABCD I JKLM ABCD I JKLM
9	イ 中世国家の形成 ◎第2部 中世 第4章 中世社会の成立 ア 院政と平氏の台頭(3) イ 鎌倉幕府の成立(4) ウ 武士の社会(3)	院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・社会を考察する。 国際的な出来事や文化の動向に着目して、平氏政権における武家政権の形成過程を理解する。 本格的な武家政権としてとして成立した鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な政権に成長していく過程を理解する。 公武関係に着目して、執権政治の確立にいたるまでの中、鎌倉幕府が公家政権よりも優位に立っていく過程を理解する。 武士の生活と地方支配を通じて、土地支配の実質的な支配権を地頭が掌握するようになっていった過程を考察する。 蒙古襲来による政治・経済・文化への影響が幕府の衰退につながっていくことを理解する。 鎌倉新仏教の成立により庶民や武士の活動が活発化し、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。		1学期期末考查	ABCD I JKLM ABCD I JKLM
10	エ 蒙古襲来と幕府の衰退(3) オ 鎌倉文化(3) ウ 中世社会の展開 第5章 武家社会の成長 ア 室町幕府の成立(6) イ 幕府の衰退と庶民の台頭(7)	南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向など			ABCD I JKLM

1		を踏まえて理解する。 応仁の乱を機に下剋上の風潮が生まれて幕府が動揺する中、庶民の活動が社会秩序の変革の原動力となりえるまで成長し手行ったことを理解する。 諸産業の発達による庶民の台頭、東アジアとの交流などを踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。 武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化及び大陸文化と伝統文化のかかりについて理解する。 庶民文化が萌芽し、戦国大名の保護を踏まえて文化が地方に普及したことを理解する。 応仁の乱以降下剋上の風潮を背景にして各地に登場した戦国大名について、各地域の地理的条件と関連づけて理解する。 大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義について理解する。 新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。 江戸幕府の成立による幕藩体制の確立を政治・経済・社会面など、多面的・多角的に理解する。	頭と荘園領主との紛争などに着目しつつ、武家政権の基盤について考察できたか。 ③④文永の役・弘安の役、得宗専制政治の展開、農業・商工業の発達による社会の変動、永仁の徳政令の発布などを取り上げ、考察できたか。 ③④浄土宗・浄土真宗・日蓮宗・時宗に加え、東アジアとの交流から禅宗が伝わり、鎌倉新仏教が成立したことに着目できたか。また、武士や庶民を題材にした文学や絵巻物生まれ、力強く写実的な彫刻が発達について考察できたか。 ②④鎌倉幕府の滅亡、建武の新政を踏まえて南北朝の動乱を考察し、守護大名などに着目して室町幕府の機構の確立について理解できたか。 ②④応仁の乱をその後の影響にも着目して考え、惣村の形成や土一揆の発生など力強い庶民の活動を踏まえて、幕府の衰退を考察する。	JKLM
1	う室町文化（3）			ABCD I JKLM ABCD I JKLM
2	エ戦国大名の登場（4）			
1	(3)近世の日本と世界 イ 近世国家の形成 ◎ 第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 ア 織豊政権（4） イ 桃山文化（1） ウ 幕藩体制の成立（5）			ABCD I JKLM
1	ウ 産業経済の発展と幕藩体制の変容 第7章 幕藩体制の展開 ア 幕政の安定（5）	江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではなく、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について理解する。 17世紀後半から18世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。 幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて理解する。 経済の発展と関連して町人文化が形成された事について、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。 農村や都市が変化して幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩が対処した諸改革についての特徴を理解できたか。	①③④流通経済の進展による農業・商工業の発達、日明貿易の展開、アイヌ・琉球との交流を踏まえて庶民が台頭する姿を考察できたか。 ③④南北朝・北山・東山文化を通じて、武家・公家文化の融合、禅文化の果たした役割などを踏まえ、能・狂言・茶の湯・生花などを例にとり理解できたか。 ②③④今日までつながる庶民文芸の流行、文化や新仏教の地方普及に着目して、庶民文化を理解できたか。 ③④鎖国統治を強化して富国強兵策を推進した戦国大名、堺や博多に見える都市の発展の原動力となった庶民の力を踏まえて戦国時代の始まりを考察できたか。 ①③④鉄砲やキリスト教の伝来、南蛮貿易の展開を踏まえてヨーロッパ世界との接触とその影響について考察できたか。 ②④幕藩体制とのつながりに着目して、検地や刀狩にみられる兵農分離策を踏まえて、織豊政権の統一過程とその政策を考察できたか。 ③④桃山文化が幅広い国際性を持ちつつ、生活文化の中にとけ込んでいったことについて、秀吉の朝鮮侵略や南蛮文化にも着目して考察できたか。 ②④幕藩体制の特質について、幕府と藩・朝廷・寺社との関係、農村・農民や町・町人への支配体制、封建的身分秩序の形成、経済的基盤などを踏まえて考察できたか。 ③④初期外交から鎖国までの過程について、長崎貿易に象徴される貿易統制や禁教の徹底といった側面だけでなく、琉球・朝鮮・蝦夷地との交易など、東アジアの動向と関連させて考察できたか。 ②④文治政治への転換から元禄時代・正徳の政治を取り上げ、幕政の安定過程を考察できたか。	ABCD I JKLM
1	イ 経済の発展（5） ウ 元禄文化（1） 第8章 幕藩体制の動揺 ア 幕政の改革（5）			ABCD I JKLM
1	イ 幕府の衰退（5）			ABCD I JKLM
2	ウ 化政文化（1）	化政文化について、学問・思想・美術・生活文化の新たな展開に着目して、文化の中心であった江戸はもとより地方文化の成長にも留意して考察する。	②④農具の開発による農業生産の進展、産業の発達と多様化、交通の整備や貨幣・金融制度の確立による商品経済・流通の発達、三都の発達に見える都市の経済的繁栄に着目して、諸産業の展開を考察できたか。 ③④元禄文化について、町人の経済的繁栄や商業活動の拡大など経済の発展や、幕府の教学として発展する儒学などに着目して、文学・学問・美術を踏まえて考察できたか。 ②④幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに着目して、享保の改革・田沼時代・寛政の改革を中心にその諸政策について考察できたか。 ②④列強の接近に伴う諸事件による鎖国政策への批判や文化・文政時代と天保の改革における失政を踏まえて、幕府の衰退をみることでできたか。 ③④農村の家内工業からマニファクチュアなど近代工業の芽生えが始まり、諸藩の財政・軍事再建から雄藩が出現するにあたっての過程を考察できたか。 ③④幕藩体制に批判的な化政文学、洋学・国学など新たな学問・思想の起こり、寺子屋などの庶民教育機関の普及、浮世絵に象徴される出版文化の発達などに着目して、文化における近代化の芽生えを考察する。	ABCD I JKLM
3				ABCD I JKLM

※授業内容を前倒しで行う場合があります。

※【 関心・意欲・態度 】→①、【 思考・判断・表現 】→②、【 資料活用・技能 】→③、【 知識・理解 】→④として表現しています。